

平成30年度学校自己評価システムシート (県立鳩ヶ谷高等学校)

目指す学校像	総合制高校として3学科の特色を生かすとともに、生徒一人一人が主体的に学ぶ力を育成する学校
--------	--

重点目標	1 カリキュラムや授業の工夫を図り、生徒の学習意欲を高め、確かな学力を育成する。 2 学校全体で、挨拶励行や身だしなみ指導などに取り組むことにより、生徒に自らを律する心を育み、基本的な生活習慣の確立を図る。 3 3年間を見通した進路指導により、生徒に目的意識を持たせ、進路実現を図る。 4 開かれた学校づくりを推進することにより、保護者・地域の信頼に応える。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	11名

学 校 自 己 評 価					年度評価 (1月31日現在)		
年 度 目 標					年度評価 (1月31日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	【現状】 プロジェクタの設置により環境が整ってきた。 校内での学習に取り組んでいる生徒が増えている。 【課題】 プロジェクタを有効に活用し授業の工夫を図る。 自主学習の取組が課題であり、明確な目的意識を持たせる組織的な取組を充実させる必要がある。	○生徒の学習意欲を向上させるため、組織的な指導体制を構築する。	①教員による授業の工夫改善により、生徒の学習意欲を向上させる。 ②多様な学習ツールを活用し、主体的な学びを推進する。 ③課題の出し方等を工夫し、自主学習時間を増加させる。	①授業に対する満足度70%以上。 ②学習に意欲的に取り組めた生徒70%以上 ③自主学習が昨年度より増加した生徒の割合80%以上。	■授業改善に学校を上げて取り組んだ ①アクティブラーニングを取り入れた授業を行い生徒の学習意欲向上に努めた。教え方や教材に工夫をしていると感じる生徒の割合74.0%。授業で達成感を感じた生徒の割合53.1%。 ②校内授業公開には49名の教員が延べ62時間の見学を行い授業改善に取り組んだ。 ③家庭の学習時間を増やすためにプリントなどを配付し、具体的に勉強できる手立てを講じることで勉強する習慣を身につけた生徒が前年比約5ポイント増加した。	B	生徒アンケートで学習に意欲的に取り組んだ生徒は39.8%であったので、生徒の学ぶ意欲の更なる向上が課題である。 次年度は、達成感を高めるために、プロジェクタの積極的な活用などについて検討する。 また、自主学習の習慣を身につけさせるために進路や授業に意欲的に取り組ませる具体策を講じる。
2	【現状】 チャイム着席に取り組んだと感じている生徒は9割を超えている。 身だしなみなどの基本的な生活習慣が整いつつある。 【課題】 生徒が自らを律する心を育成する必要がある。	○生徒の自律心を育成する。	①基本的な生活習慣を確立するために、チャイム始業、挨拶励行、身だしなみ指導を徹底する。 ②交通ルールを遵守させるため、交通安全指導の取組を充実させる。 ③課題を抱える生徒への対応について、外部機関等との連携を含め、支援体制を充実させる。	①チャイム始業100% ②交通事故が減少したか。 ③充実した学校生活だと思う生徒・保護者の割合が90%以上。	■組織的な指導で自立心が形成された。 ①生徒アンケートで身だしなみやチャイム始業に取り組んでいると回答した生徒が91.9%であった。 ②交通ルールの順守を徹底させることにより事故件数が4件に減った。 ③保護者とも連携して生徒の状況に応じた指導を組織的に行い悩みや不安を取り除いたことで、生徒アンケートで「充実した学校生活だ」と回答した生徒が75.9%、保護者が91.4%であった。	A	引き続き、身だしなみ指導と遅刻指導を行い生徒の自律心を育成するとともに、自己肯定感をはぐくむ。 安心、安全な登下校のためにも交通マナーとルールの遵守を徹底させる。 生徒指導に加え、教育相談の機能の充実を図り、一人一人をより大切に作る体制を構築する。
3	【現状】 きめ細かな進路指導により、進路決定者は9割を超え成果を上げている。 【課題】 生徒の進路実現に対する高い目標とチャレンジ意識を醸成する。	○生徒に高い進路目標を持たせ、3年間を見通した進路指導計画の充実を図る。	①進路指導と生徒指導の連携を図る。 ②進路指導部を中心として3年間を見通した進路指導計画を充実させる。 ③進路ガイダンスや面接を通して、生徒に資格取得や高い進路目標を持たせる。 ④保護者の意識を啓発し保護者と連携した進路指導を行う。	①身だしなみに意識して授業を受ける生徒が増えたか。 ②進路指導部と学年が連携して進路行事に取り組めたか。 ③高い目標を持って学習に取り組む生徒が増えたか。 ④保護者の啓発を含めた進路指導の取組ができたか。	■進路実現に向け指導時期を再考した。 ①面接練習をとおしてマナー指導を行ったことで、身だしなみや言葉遣いなどを意識する生徒が増えた。 ②学年と進路指導部が連携して進路行事に取り組む、予定した行事を滞りなく行った。 ③例年より早い段階での進路別ガイダンスを行い進路について考える機会を多く持たせ、進路意識が高まった。 ④文化祭のPTA企画展で保護者が進路の取組についてポスター発表した。	A	授業の延長線上に進路決定があるということを生徒に意識させ、高い目標に向かって生徒が日頃から積極的に学習に取り組む環境をつくる。 今後も学年と進路指導部が連携して、段階に応じた進路指導をきめ細やかに行い、多様な進路に応じた指導を行う。
4	【現状】 学校説明会や授業公開、学校HPの更新を行い、学校の魅力を発信している。 【課題】 保護者や地域、卒業生、中学生の期待と信頼に応えるため、きめ細かい情報発信を行う。	○家庭や地域に対して、学校の教育情報発信を充実させる。	①学校HPを見やすくするとともに内容の充実を図る。 ②メール配信システムを活用し、保護者通知文送付等を発信する。 ③地域の人材や施設等の活用を進める。	①学校HPの更新回数が増やせたか。 ②保護者、地域に情報を発信できたか。 ③外部の人材や組織、施設を活用したか。	■保護者や地域の理解と協力が得られた。 ①HPの更新回数は増えなかったが、部活動の取組や学校行事での生徒の様子を紹介することで、中学生の関心を高め、学校説明会や体験入学に延べ1024人の中学生が参加した。また、HPの他に広報誌「伝書鳩」や学年通信などで学校の活動の紹介をした。 ②挨拶励行運動、ロードレース大会の情報を発信しPTAの協力を得られた。 ③外部講師派遣制度を活用し国家資格検定の指導を依頼したり、近隣施設で部活や学科などの発表や作品展示を行ったりした。	B	部活動や行事に加え、専門学科の取組や日常的な学校の様子を紹介し、中学生の関心を高める。 引き続き、広報活動に努め保護者や地域住民から協力を得られるようにする。 HPの更新数は、68件にとどまったので、更新回数増に取り組む。

学校関係者評価	実施日 平成31年2月8日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>困難な課題に取り組み解決したときに得られる達成感が生徒を成長させる。授業や行事をとおして、生徒が組織的に取り組み、力を合わせて作り上げるような活動をさせて欲しい。 プロジェクタを使用したプレゼンテーションは、上級学校や職場では必須であるので、高校生の時期から慣れておくことは有意義なことである。プロジェクタの画面を見やすくするため、スクリーンを整備してはいかかか。 不易と流行どちらかに偏ることなく、今後も授業改善に努めていただきたい。</p> <p>鳩ヶ谷高校に校外行事で当施設を利用させていただいた際、生徒の身だしなみや挨拶がしっかりしており、職員一同感心したところである。 学校評価懇話会で訪問すると、校舎内も清掃が行き届いており、年々学校が落ち着いてきていると感じる。 多くの生徒は、自転車での登校マナーが良くなっている。女子のスカート丈が長くなったことでも学校としての落ち着きを感じる。 若い教員が多くなってきているので、生徒も教員も育てる学校であって欲しい。</p> <p>早期の意識付けや、体験活動から生徒の進路意識を高めることはよいことである。生徒の期待に応えるためにも、進路指導室の使い方など具体的な支援も早期から取り組んでいかかか。 鳩ヶ谷高校では女子生徒が多く、進路に関しては地元志向が高いようであるが、川口市の地域性から今のところ製造業での求人が多い。生徒の希望と社会状況とのマッチングを意識した進路先の開拓が課題である。</p> <p>中学生対象の学校説明会などで生徒会を中心とした生徒が活躍することは評価できる。 HPに写真が少ないと感じる。広報誌「伝書鳩」にあるように、写真を多く使った見映えのするページを作成していただきたい。 地域目で見ると、学校周辺の清掃が行き届いていると感じる。川口市の成人式における立派な壇上花が、園芸デザイン科の生徒の作品であると伺い誇らしく感じる。今後も地域社会との連携に取り組んでいただきたい。</p>

